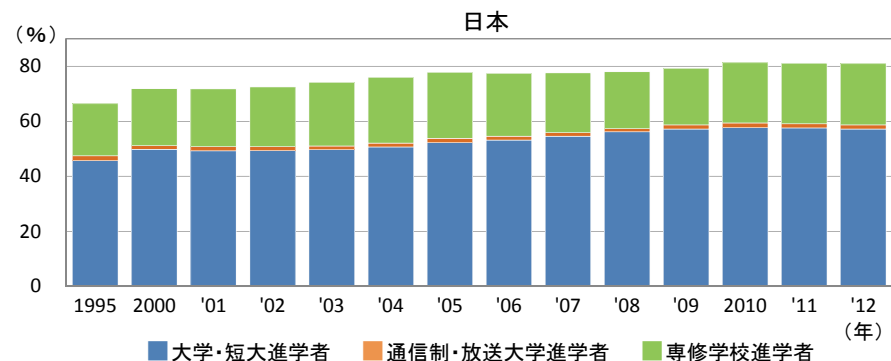
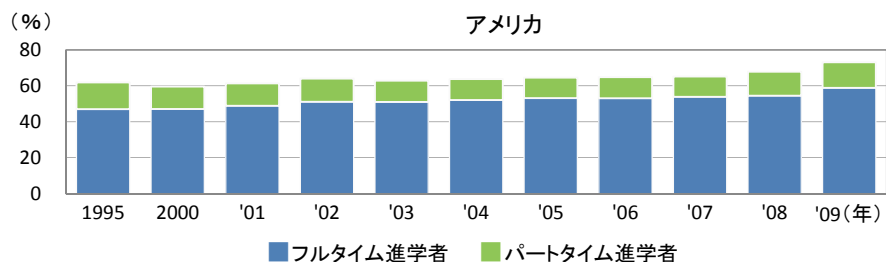


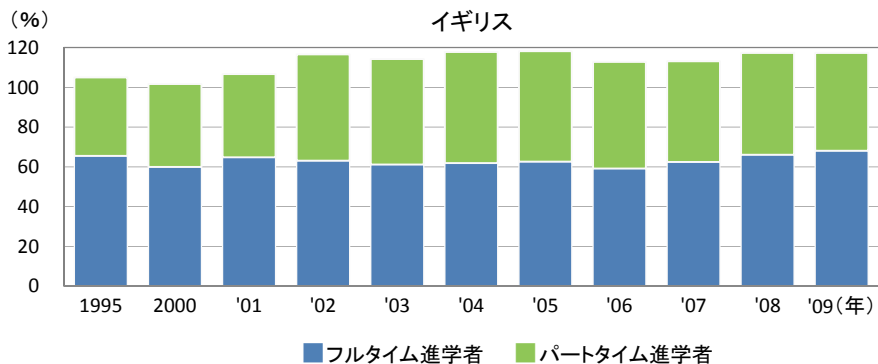
8-1 高等教育機関への進学率



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-1表 高等教育機関への進学率:日本」(p.229)参照。

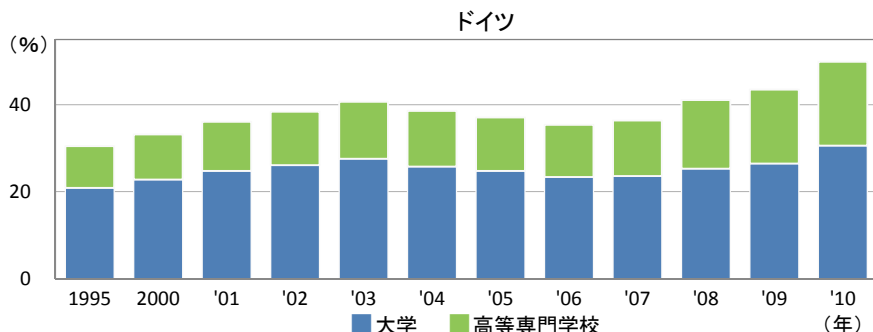


▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-2表 高等教育機関への進学率:アメリカ」(p.229)参照。

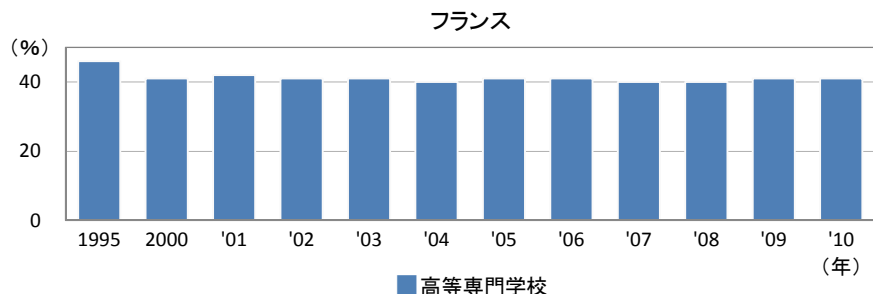


▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-3表 高等教育機関への進学率:イギリス」(p.230)参照。

8 教育・職業能力開発



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-4表 高等教育機関への進学率:ドイツ」(p.231)参照。



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-5表 高等教育機関への進学率:フランス」(p.231)参照。

高等教育機関への進学率の国際比較は、各国の教育制度が異なっているため容易ではない(「第8-2表 各国の学校系統図」参照)。但し、上記のグラフをみると、各国とも概ね安定した推移となっていることがわかる。

日本の進学率は、1995年から概ね緩やかな上昇を続け、2011年には81.1%に達したが、2012年は0.2ポイント低下し80.9%となった。アメリカの進学率は、1998年及び2000年に60%を割り込んだものの、その後持ち直している。イギリスの進学率は2002年以降急上昇している。これは、1992年の継続・高等教育法による教育制度改革の結果、大学数が増加し、進学率が急増したためである。ドイツの高等教育への進学率は、2001年以降やや上昇し40%弱で推移したが、2006年には35.4%に低下した。その後、再び上昇に転じ、2010年には49.9%に達した。ドイツの進学率には、ハウプトシューレや職業学校、職業上構学校などの職業教育機関は含まれていないことに留意が必要である(「第8-2-4表ドイツの学校系統図」参照)。また、フランスの進学率の算出基礎となった数値についても、複数の教育機関に登録されている者の数が未公表であること、通常の在学年齢以外の学生が相当数含まれていることに注意が必要である。